

創造的な復興へ

宮城県政策紹介シリーズ①



むすび丸

仙台空港民営化

東北再興の拠点空港を目指して

県では、震災からの創造的復興に向けて仙台空港の民営化を推進してきました。そして、今年7月から民間事業者による空港運営がスタートしました。今後、空港民営化により、航空路線の拡充や空港利用者の増加などさまざまな効果が期待されています。

県では、関係機関と連携しながら、仙台空港の民営化を地域経済の活性化につなげる取り組みを着実に進めています。

航空路線の拡充に向けた動きと県の取り組み

仙台空港は現在、海外5都市、国内8都市へのネットワークを有しています。

航空路線については、今年に入り、拡充に向けて明るい動きが出てきています。

6月には「仙台—ソウル線」が毎日

運航となつたほか、タイガーエア台湾による「仙台—台北線」

が新たに就航しました。また、10月には台北線が、トラン

アジア航空の新規就航やエバー航空の増便で、タイガーエ

ア台湾を合わせ週10往復の毎日運航となりました。

日本旅行業協会と共同で、若者を対象にパスポート取得費用

を一部助成する「パスポート取得促進キャンペーン」を実施

したほか、10月から12

月までは、中部地方以

西などからの飛行機を

使った誘客拡大を図る

ため、空港運営権者で

ある仙台国際空港株式

会社や各航空会社など

と連携し、仙台・宮城の

魅力を発信する「スカ

イジャーニー仙台・宮

城キャンペーン201

6」を展開しています。

仙台空港路線図



空港民営化によって期待される好循環

東北地域への来訪者増加

東北地域への来訪者増加